慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ライト 資本主義
Sub Title	新刊のアメリカ入門経済学叢書（The economics handbook series）より David McCord Wright, Capitalism, 1951, pp. xvii+246 From The economic handbook series
Author	千種, 義人
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1952
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.45, No.3 (1952. 3) ,p.200(58)- 206(64)
JaLC DOI	10.14991/001.19520301-0058
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19520301-0058

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Edward E. Chamberlin, *The Theory of Value and Distribution.*
*Abba P. Lerner, *Economics of Employment.*
Wassily W. Leontief, *Mathematical Economics.*
Lloyd Metzler, *Elements of Dynamic Economics.*
*Thomas C. Schelling, *National Income Behavior.*
Fritz Machlup, *The Scope, Concept and Methods of Economics.*

Money and Related Fields

Joseph A. Schumpeter, *Money.*
〃 *Banking.*
*Alvin H. Hansen, *Monetary Theory and Fiscal Policy.*
John H. Williams, *Monetary Theory and Public Policy.*
Gottfried Haberler, *Trade Cycles.*
Howard S. Ellis, *International Trade.*
Robert Triffin, *Central Banking.*

Other Applied Fields

Slichter & Dunlop, *Labor Economics.*
John Cassels, *Economics and Agriculture.*
Edward S. Mason, *Industrial Organization.*
Seymour E. Harris, *Economics of Social Security.*
Baker, Hill & Cunningham *Economics of Transportation.*
*Edgar M. Hoover, *The Location of Economic Activity.*

Economic Organization and Government

*David McC. Wright, *Capitalism.*
*Paul M. Sweegy, *Socialism.*
Abram Bergson, *Soviet Economics.*
Lincoln Gordon, *Government and Business.*

Economic History

John G.B. Hutchins, *American Economic History.*
Walt W. Rostow, *European Economic History.*

ライト『資本主義』

David McCord Wright, Capitalism, 1951, pp. xvii+246.

千種義人

著者ライトは、ペンシルバニア大學、バージニア大學及びハーバード大學で、建築學、法律學及び經濟學を研究し、現在はバージニア大學の經濟學教授である。本書は、「師、批判者そして友であるヨーゼフ・シュムペーター」に捧げられている。ライトの語るところによれば、シュムペーターの最も魅力的な性格の一つは異説に對する彼の態度であつたと。シュムペーターは資本主義の存續を不可能と考え、社會主義社會への必然性を主張したのであるが、ハーバード大學で彼の講義を受けつつもライトは、この點について、シュムペーターに同意し得なかつた。ライトの見たところでは、シュムペーターは一種の觀念論的運命論者であつて、資本主義組織の技術的可能性を問題にしなかつたのである。ライトは、これに反して、幾分樂觀主義者であつて、むしろ資本主義を如何にすれば存續せしめ得るかについて構想を練つたのである。しかしシュムペーターは自己の意見を弟子に押しつけるような態度をとらなかつた。彼はただ自己を理解してくれることを求めた。この意味でシュムペーターはライトにとつて師であり、批判者であり、友であつたのである。

本書は資本主義に關する概論である。ここで取扱われている主な問題は、資本主義のイデオロギーは何か、資本主義は經濟的生長に適しているか、廣く社會問題とは何か、生長の條件は何か、資本主義の缺陷は何か、社會保障の發達は生長と自由とにどのような影響を與えるか等である。著者は、先ず資本主義の缺陷を認める。そして自由放任を以つてしては、資本主義を乘切ることができないと考える。しかし計畫化ないしは强制によつて、自由と生長を奪つてはならない。自由と生長とを殘存せしめつつ、しかも資本主義の缺陷を除くにはどうすればよかろうか。如何なる方策も完全ではないかも知れないが、何らかの方策が可能なのではなかろうか。彼はその方策を技術的に考察しようとするのである。

本書は、第一部社會問題、第二部資本主義の諸問題から成つており、第一部では社會問題とその解決の方法が示され、第二部では景氣循環、獨占、資本主義の安定化及びその將來が論じられている。

第一部、第一章、「政府と社會問題」において、先ず共産主義者の教義「國家の衰退」が吟味される。レーニン・マルクス主義者によれば、私有財産制度が廢止されるならば、人間は次第に善良となるが故に、强壓の機關である國家の必要はなくなると。もしこの教義が正しければ、將來、如何なる國家又は政治經濟組織が望ましいかを研究することは無意味である。しかし私有財産の撤廢が如何にして理想社會を實現し得るか。生産の計畫化と所得の平等分配が行われたとしても、生長している社會においては、不安定、壓制グループ或は衝突を避けることはできない。生活水準がどんなに高められようとも、不滿な人々が常に存在する。倫理上の問題も解決しなければならない。かくして社會問題を緩和するために種々の企てがなされねばならず、從つて何らかの政治組織が必要である。

次いで第二章「社會的生長の要件」において、生長の內容が明らかにされる。生長のための要件として資源、勞働、知識と

教育、節約、企業、イデオロギー、安定及び批判の八項目が掲げられ、これらのものは、資本主義のみならず、如何なる社會にとつても必要であることが强調される。

第三章、「資本主義と社會問題」では、資本主義社會の經濟組織が描寫されている。即ち財貨は如何にして生産され、分配されるか、その社會は生長にどのように役立つか、その社會の文化的特色は何であるか等について述べられている。そして資本主義は前掲の生長の諸要件を最もよく備えており、最も生産的な組織の一つであることが明らかにされる。

第四章、「民主主義、資本主義及び生長」は本書の核心をなすもので、ここでは競爭的な資本主義は最も民主主義的であり、それはまた長期的に見て最も生産的な組織であることが力説されている。先ず民主主義とは何かから決めてかからねばならない。民主主義については、最も素朴な概念として、多數者支配の觀念があるけれども、これはやがて獨裁に導くものであるから、適當な定義ではない。第二にプロレタリアート獨裁というマルキストの概念があるが、これは英米流の觀念と全く逆のものである。そこでライトは、トーマス・ジェファーソンから受繼がれたアメリカ流の概念、即ち「正義と寛容の支配」という概念を採用する。ところで正義と寛容とは何であるか。その意味は必ずしも明確ではない。そこでライトは一般的な定義を斷念して、經濟上の民主主義を、(1)統治の民主主義、(2)身分の民主主義、(3)厚生の民主主義、(4)選擇の民主主義及び(5)抱負と機會の民主主義という五つの標準に照らして判斷しようとする。第一は選擧に參加する權利を、第二は平等、例えば所得の平等を、第三は生活水準の向上を、第四は職業と消費の自由を、第五は各人に自己の最大限を發揮せしめる機會を意味する。選擧權を與えるだけでは、個人を不正義と不寛容から保護することはできない。國民の特性とイデオロギーの水準、即ち勤勉、健康、責任感、賢明、知識の水準が高くなければ、善良な指導者を選ぶことはできないであろう。更に政治經濟上の組織が優れていなければ、有效な進歩的民主主義を遂行することができない。これに加えて、あらゆる階級の人々に經濟的獨立が與えられねばならない。人々が指導者に反對意見を表明したために、經濟生活を不可能ならしめられるならば、正しい批判をなすことができなくなるであろう。指導者もまた經濟的獨立が保障されていなければ、有效な指導を行うことはできないであろう。これと並んで重要なことは、指導者達相互間に獨立的競爭が行われることである。社會の成員のすべてが指導者になることは不可能なのであるから、人々は自己を保護してくれる何人かを指導者として選ばねばならない。從つてもしあらゆる指導者が同じ集團に屬して、同じ政策を行うとするならば、一般市民は困つてしまうであろう。ある指導者によつて統治されている一つの集團が自己にとつて不適當であるならば、その人は他の指導者によつて統治されている他の集團へ移動したいと思うであろう。かかる移動が支障なく行われるためには、各集團の指導者達の間に獨立的な競爭が存在しなければならない。人、或は、一集團又は組織の中において仕事の保障が與えられれば、それで充分であると考えるかも知れない。しかしかかる保障によつては、經濟的民主主義は全うされない。何となればたとえ仕事が保障されても、指導者に反對する人は種々の障碍を蒙るであろうからである。彼は秩序の破壞者であるといつて非難されるであろうし、昇進の機會を減ぜられるかも知れないからである。このようなわけであるから、獨立的に競爭する多くの組織が存在していて、ある指導者又は集團に反對する人は、大した經濟的損失なしに他の組織へ推移することが望ましい。仕事を變える機會を與えることは、不正義を矯正する比較的に敏速かつ容易な方法である。經濟的獨立、從つて有效な民主主義政治の最も重要なる源の一つは、「經濟單位内における仕事の保障ではなく、經濟單位間の競爭と他の單位への推移の合理的可能性である。經濟計畫による極端な權力の集中は、指導者間の自由競爭を不可能ならしめて、民主主義を妨げるものである。殊に計畫者は「豐富」を與えることばかりでなく、「保障」を與えようとするものであるが、嚴密な意味における保障は、生長の可能性を減少せしめるであろう。何となれば絶對的な保障は、結局において劃當、優先權、價格統制等を必要とするに至るからである。

社會的生長が遂げられるためには、變化が必要であり、變化は獨立心によつてもたらされる。從つて抱負の民主主義、即ち獨立心に基いて向上する機會が與えられねばならない。各組織単位の内部において、競爭試驗等を行つて昇進せしめ、或は選拔する方法が用いられているが、かかる方法は非創造的な凡人を養成するに過ぎない。それは人々をして新しい觀念を探索せしめるよりは、從來の偏見を詰込まじめるに過ぎない。又集中化された計畫が行きわたつて、組織間の競爭が失われた場合においても、獨創的進歩は停止する。このように組織内の昇進及び組織外に對する完全な統制が極端にまで押し進められるならば、文明の創造的進歩は破壞されるであろう。ここにおいて、ライトは「自己選拔的無競爭集團の狹化」(the narrowing of the self-selecting noncompetitive group)という基本的觀念に到達する。すべての指導者は自己を保全しようとする。その結果、次第に指導者としての資格に缺けるようになる。指導者に追從する人のみがその集團の中に殘り、彼に反對する勇氣を持つた人々はその外に追出されるであろう。それ故に自己を保全しようとする無競爭集團が消失して、獨立的競爭集團が增加することが望ましい。しかしこの目的を達するためには、經濟的獨立が得られねばならない。何となればこれなくしては、無能な指導者に對抗することができないからである。

では資本主義はこれら民主主義の基準を充たし得るであろうか。もちろん完全には充たし得ない。しかし競爭的資本主義は他の社會よりもより多くこの基準を充たすであろう。更に競爭的資本主義は、社會主義的又は中央計畫的社會に比して、長期的には一層生産的であると考えられる。但し短期においては、

それは極めて不安定である。

このように、資本主義は社會主義社會又は計畫的社會に比して望ましいものであるが、資本主義にも缺陷がある。ライトは資本主義の最も重大な暗黑面として、景氣循環、獨占及び不安定性をあげ、これを分析する。本書第二部の、第五、六及び七章がこれに當てられている。しかし資本主義のこれらの缺陷は周知のことであつて、ここで紹介するまでもなかろう。これらの缺陷は除去されなければならないものであるが、ライトはその際あくまでも生長と自由を確保すべきことを强調している。資本主義の安定化政策によつて、或は保障制度によつて生長能力を破壞し、自由を危殆に陷らしめてはならないのである。社會的生長のあるところでは、再組織が必要であり、再組織が行われるところでは、必ず危險が伴う。從つて保障の問題が生ずる。しかるに保障が極度にまで進められると、生長が停滯し、自由が損われる。このディレンマをどうして克服するかが、重大問題として殘る。前述の理由から、ライトは中央計畫化を排して、あくまでも競爭的な資本主義を維持しようとする。もちろん完全な自由競爭を主張するのではない。彼は不況期、インフレーション及び戰時を區別して、資本主義安定化政策をやや具體的に述べている。

最後の章、第八章「資本主義に對する豫想」においては、現在の民主主義的資本主義を如何にすれば生存せしめ得るかについて考察される。これに答えるためには、ライトは民主主義的資本主義の現在の危機は、社會的價値の基礎が推移した結果であるのか、それとも單に無知と誤解の結果であるかを吟味する。われわれは常に自由と變化を欲するものであるが、もし廣い機會、生活水準の向上、寬容、民主主義、獨立、變化及び活動のような價値に最も强い重點をおくならば、資本主義制度が最上のものである。しかしもし人々がこれらの價値を押しのけて、靜觀、平靜、保障及び參與等に究極的價値を求めるならば、社會主義又は全面的中央計畫がより望ましいものとなろう。だが問題はこのように明確には劃切れない。資本主義の枠の中においても多樣性の餘地があり、資本主義安定化の種々の方法が技術的に考えられ得る。ライトによれば、現在の危機は、社會的價値が根本的に變つたからではなく、むしろ將來に對する無知と誤解に起因するのである。しかしこれら無知と誤解を除くことは可能であろうか。

ライトは、現在の無知と誤解の原因の一つを、最近の文獻において社會主義と資本主義とが、適當なバランスの下で比較されておらず、社會主義の側に一方的に片寄つて述べられていることに求める。シュムペーターの「資本主義、社會主義及び民主主義」すらも、問題を全面的にとりあげていない。彼は動態資本主義を靜態社會主義と對照しており、從つて生長的社會主義社會における資源配分の問題を輕視している。人々はヴェブレンやマルクスの敎えに一方的に染色されている。即ち資本主義的競爭が混亂と戰爭をもたらすものであるから、競爭を排除することがあらゆる種類の衝突を除去することになると考えている。しかし社會主義においても、政治上の競爭が行われるであろう。經濟上の競爭は望ましくないが、政治上の競爭は望ましいものであるといえるであろうか。更に生長しつつある社會主義社會においては、生長しつつある資本主義社會と同樣の困難が生ずることに氣づかれていない。豫測の困難、過剩能力への傾向、保障への强い要求、沈滯等は、社會主義においても存在する。誤算や景氣循環は資本主義だけの問題ではない。

勞働組合に關する文獻もまた、問題を全面的にとりあげていない。勞働運動は、生活水準の引上、個人的機會の增加、民主主義の擴大等を目的とするものであるが、それはまた仕事の保障及び共同管理に對する運動でもある。これら二つの目的はしばしば衝突する。有效な民主主義行爲は必ずしも共同管理と兩立しない。仕事の保證は技術的變化及び生長と衝突する。勞働組合と生長とのこのような重大な衝突については、これまで殆んど指摘されていない。組合運動の最も大きな缺陷は、組合の指導者達が、組合員を外部の思想からできるだけ孤立せしめようとすることに關心を有するということである。彼らの機關の中には、誹謗と誤傳の流れが絶えず注ぎ、反對の提案はすべて無視される。答え得ない議論を回避する最善の方法は嘲笑なのである。

知識人の中にも、今日の貧困、戰爭、不滿、失業、浪費、インフレーション、ディフレーション等をすべて事業家の所爲に歸している者が多い。これらの攻擊と誤解を說得だけによつて緩和することは充分ではない。しかしわれわれは、計畫、保障、參與等の要求が强くなるにつれて、社會の生長が次第に衰えるという論理を是認しなければならない。知識人にこのことを納得させることはできないとしても、實生活においてこの嚴しい論理を體驗している一般市民を納得させることには、なお希望を持ち得るであろう。

次に大衆が生活水準の引上及び機會の增加等を欲しているにも拘らず、國家がそれらの欲望を充たしてやれないすれば、どうなるであろうか。その場合、政治的革命や暴動が起るであろうか。これも簡單には答えられない問題である。あらゆる缺陷を事業家の責に歸する人々は、計畫化を强めることによつて大衆の期待を充たし得るようになると考え、事態が惡化しない中に計畫化を進めるべきであると主張する。しかしライトは前述したような理由から、計畫化に反對する。彼は人々が社會主義又は計畫化の缺陷に目覺める機會が早晩來るであろうと考える。彼によれば、結局、現在の世界の諸條件に照らして、資本主義は經濟的に望ましいものなのである。それは最も生產的な組織であり、最大の機會を與えるものであり、國家權力を最もよく抑制するものである。それ故にわれわれは現在の制度を早まつて葬る必要はない。現實の論理はあらゆるイデオロギー上の壓迫を打負かすであろう。そしてわれわれは、世界發展の偉

大なる領域へもう一度出發することができる。かくしてライトによれば、現在の民主主義的資本主義を存續せしめるためには社會主義的思想へ餘りにも偏して、公正な判斷を失つている人々に、正しい知識を注入することが必要なのである。

以上が本書の內容である。本書は何よりも競爭的資本主義を擁護したものとして特異性を有するであろう。反資本主義的イデオロギーと文獻の波に敢然と對抗し、資本主義の長所を說き、經濟の論理から判斷して、資本主義の存續性を强調したことは、本書の最大の特色であろう。現在、資本主義に對するイデオロギー的壓迫は極めて强い。それにも拘らず、第一線で活躍している事業家達は資本主義が經濟の發展上望ましいことを體驗的に知つている。現在の事業家達がしばしば歎いていることは、これ程望ましい資本主義を、何故に學者や思想家達は辯護しないのであろうかということである。學者は、社會主義者に對抗して、資本主義の存續が望ましいことを强調する勇氣を持たないのであろうかという、非難すら與えられている。本書は事業家のこのような要求にぴつたり合うものといえよう。しかし問題は、ライトが提案したような民主主義的資本主義を如何にして完成し得るかにある。彼は、指導者相互間の獨立的競爭、從つて組織相互間の競爭、仕事變更の機會及び經濟的獨立等の必要を說いている。これらのことが望ましいことについては、大きな異論はないであろう。しかし組織相互間の競爭が完全に行われた場合に、如何なる現象が發生するであろうか。それは自由放任經濟の缺陷を再現するかも知れない。この缺陷を防止するためには、ある程度の計畫と保障が必要となるのではなかろうか。又、自己の職場が好ましくない時には、他の組織に移動する機會が與えられることは、何人にとつても望ましい。しかし職業の移動には、制度的、地理的、慣習的な種々の障碍が存在するのみならず、職業が專門化するにつれて、その變更は次第に困難となるであろう。新しい職業のために訓練する期間中、國家による何らかの保障が必要となることも考えられる。更に經濟的獨立を如何にしてあらゆる人々に與え得るかも疑問である。これを與え得ないところに、現在の社會の大きな惱みがあるのである。ライトによつて提案された社會は、たとえ望ましいものであつても、かかる社會を實現するまでの過程に、多くの困難が潛んでいるのではなかろうか。

ラーナー『雇傭の經濟學』

Abba P. Lerner, Economics of Employment, 1951, pp. xv+397.

福岡正夫

ラーナーの『雇傭の經濟學』は次のような寓意的な夢物語から始まつている。

いま、かりにわれわれが火星を訪れて、明日の都（city of Tomorrow）の大通りを眺めているものとしよう。その大通りというのは幅は廣くて眞直ぐであるが、兩方の側が高くもち上つていて、そこを通る自動車が一方の側に近づくとひとりでに前の車輪が反對の方を向き、今度は反對の側に近づくとまた同じことが起る、という風になつている。いわば自動車はどこまでもジグザク・コースを走りつづけてゆくのである。……やがて、一臺の車がわれわれの傍で急停車して、中から運轉手が乘るか乘らないかをたづねるのだが、開かれた扉の中を覗いてみてわれわれはびつくりしてしまう。何故なら、その車にはハンドルがないからである。このことを運轉手に問いただすと、彼はむしろ不機嫌さうに次のように敎えてくれる。「ハンドルですつて。そんなものがついていたらどんなに危いか、まあ一寸考えて御覽なさい。放つておけば通りの端で自然に曲れるものをもしハンドルがあつて、意識的にそれを操つて方向轉換しようとすれば、ひつくりかへつてしまうに決つているじやありませんか。……この道路は見てお分りのように、たとえハンドルがないにしても、路からはみ出てしまわずに何百哩も走れるようになつているんです。まづ事故は滅多にあるものではなく、萬が一それが突發したとしても、われわれは怪我人をそばの病院へかつぎこんで、殘骸をすぐさま片付けてしまうとても有効な組織をもつているんです」。

彼は更に語りつづけるであろう。

「……何と素晴らしいことではありませんか。事態は更に改善されつつあります。あそこでわれわれの前を走つていつた車の跡に印をつけたり、それを寫眞にとつたりしている人たちを見て御覽なさい。あの人たちはそれらの寫眞を實驗室に持込んでそれらの曲線の循環的な性質や、規則性の度合や、曲り目から曲り目までの平均的な長さや、その振幅の大きさ等々を分析するんです。もしそれらの本當の性質についてあの人たちのまちまちな意見がまとまる日が來たら、われわれはそれについて何事か、なすところを知ることが出來るかもしれません。しかし、現在のところ、彼等はこの循環運動が道路の表面の性質に依存するんだとか、いや道路そのものの形に依存するんだとか、そうではなくて車體の長さに依存するんだとか、タイヤのゴムの種類に依存するんだとか、更には天候に依存するんだとか、しきりに議論し合つているに過ぎません。彼等の中には、われわれが馬車の昔にかえるのでないかぎり、循環は所詮避けられないんだと考える人もいますが、われわれはそうは考えません。何故なら、われわれは進步を信じているからです。さあ、どうです、一つお乘りになつてみませんか」。

ここでどうあつても怪我はしたくないという氣持と、この氣狂いを體よくあしらうにはどうしたらいいだろうかという氣持のヂレンマが、この惡夢から醒めることによつて一擧に解決されるというわけである。そのとき、われわれはわれわれ地球の住人がこの火星の國の運轉手よりも一層リーズナブルであるこ